フルート
ピッコロ

取扱説明書

輸入総発売元

マックコーポレーション株式会社

〒451-0071　名古屋市西区鳥見町1-18-1
TEL.052-528-5870　FAX.052-528-5878

www.maccorp.co.jp

この度は、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品をご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性質等を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

安全上のご注意

●オイルや小さな部品類をお子様が口にしない様、ご注意ください。

●ぶつけたり、落下や転倒によって変形する恐れがあります。外観を損なうだけでなく、演奏に支障をきたす恐れがあります。取扱いには十分ご注意ください。

●楽器を火気に近づけないでください。火災やけがの原因となることがあります。

●楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。

●調整、修理が出来なくなる恐れがありますので改造はおやめください。
補償の対象外となります。

●やむを得ず先端が尖った部位がございます。取扱いの際には十分ご注意ください。

キイキャップに関する注意

キイキャップ

リングキイフルートにはキイキャップが付属しています。
キイキャップは、音色の好みなどで自由に取り外すことができます。
使用しないときは、なくさないように注意し、保管しましょう。

木製管体に関する使用上の注意

木製製品は金属・プラスチック製品に比べ温度や湿度の変化を受けやすい性質をもっています。特に急激な温度の変化や湿度の変化で管体が膨張・収縮し管体がひび割れたり、キイの動作不良を起こすことがあります。取り扱い時には十分ご注意ください。

●吹く前に楽器を室温で慣らしてから、手のひらで包むようにして温めてください。
息を吹き込んで管内を温めることはしないで下さい。
急激な温度変化が管体のひび割れなどの原因になることがあります。

●使い始めの1～2カ月は長時間の演奏は避けてください。
最初の1週間は1日20～30分程度の使用にとどめ、徐々に慣らしてください。

●演奏の合間にもこまめに管内の水分を取り除くように心掛けてください。
楽器を置く際は音孔面が下側に来ないように置いてください。
音孔内部に水分がたまるのを防ぐことができます。

●使用後は必ず管内の水分を拭き取ってください。
音孔に息を吹き込むなどして音孔の内部にたまった水分を吹き飛ばしてから、ガーゼなどで管内の水分を取り除いてください。
ジョイント部の水分も取り除くようにしてください。

ご用意いただくもの

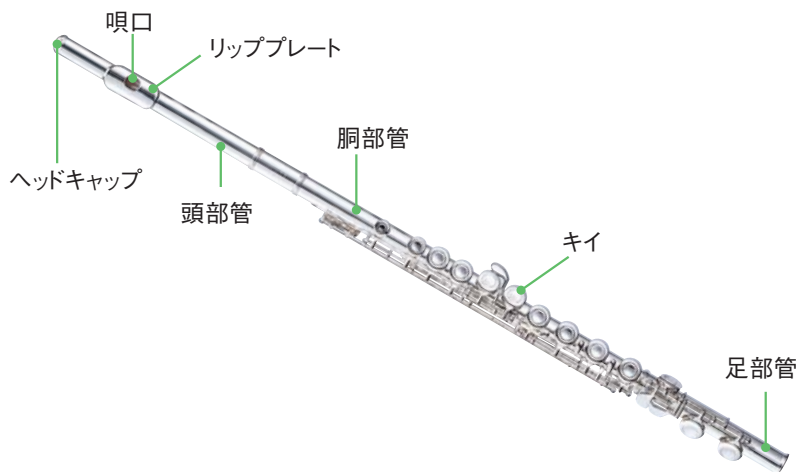
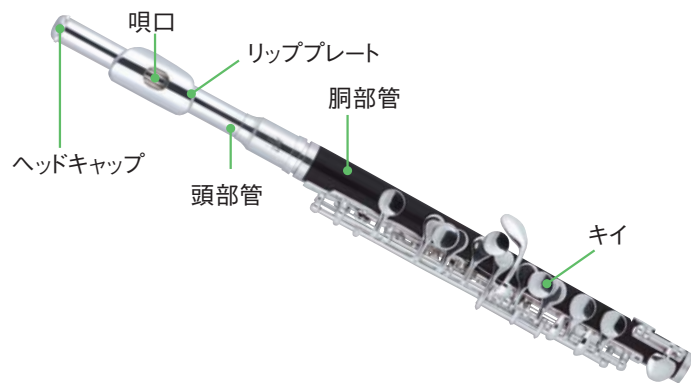
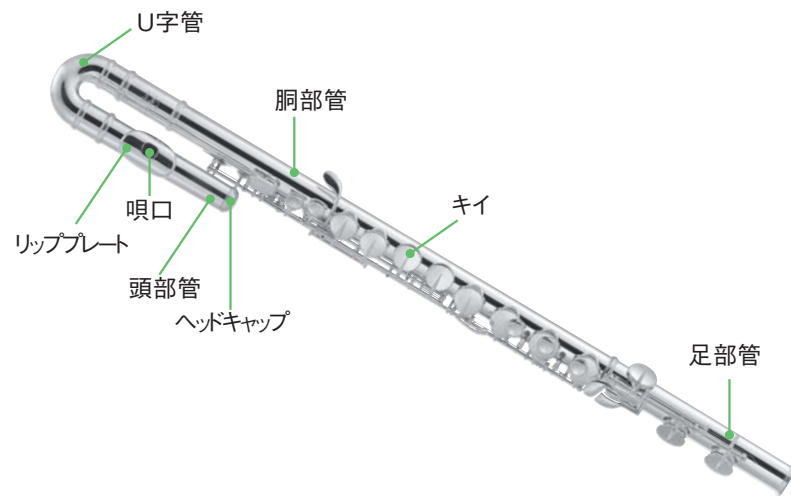
必要なもの

●ガーゼ	管内にたまった水分を取り除きます。
●クリーニングロッド(掃除棒)	ガーゼを巻いて使用します。 また、反射板の位置を調整する際に使用します。
●クリーニングクロス	管体表面の汚れを拭きます。
●クリーニングペーパー	タンポとトーンホールの間にたまった水分を取り除きます。
●コルクグリス	ピッコロの胴部管のコルク部に塗ることで、頭部管が抜き差ししやすくなります。

あったら便利なメンテナンス用品

●シルバーポリッシュ	銀メッキ仕上げの楽器の銀の変色を磨き取ります。

各部の名称

●フルート

●ピッコロ

●U字管フルート、アルトフルート

楽器の置き方

●ピッコロ
●フルート

安定した場所にキイを上にして寝かせて置いてください。

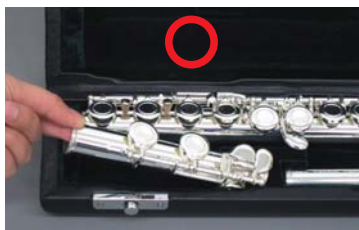
●U字管フルート
●アルトフルート

頭部管の角度によっては、不安定な場合もありますのでご注意ください。

1 本体の組み立て

注意!

管体を取り扱う際はキイに無理な力がかからないように注意してください。また、楽器をぶつけたり落としたり、乱暴に扱わないように十分にご注意ください。

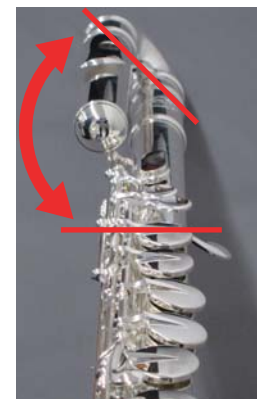
1 本体をケースから取り出します。 キイやキイパイプを持たないようにして下さい。

2 キイの部分を押さえないように注意しながら胴部管と足部管、頭部管をジョイントします。

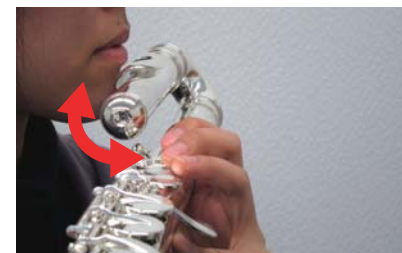
ジョイント部分のホコリや汚れを、ガーゼで拭き取ってからジョイントしましょう。胴部管や足部管のキイを押さえないようにご注意ください。

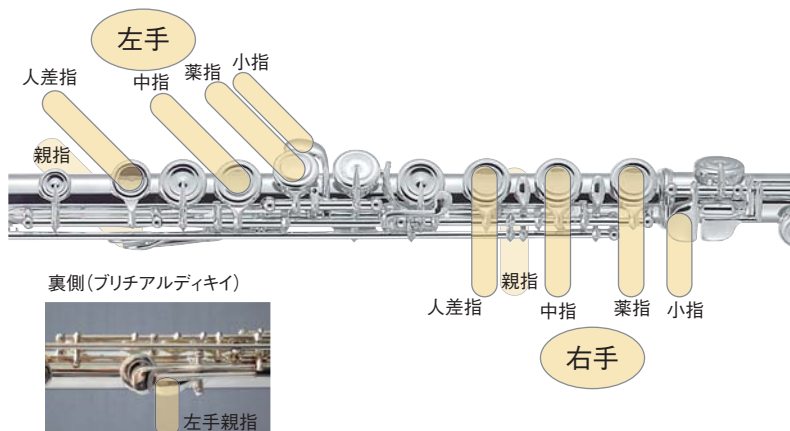
●ピッコロの場合

胴部管のコルク部にコルクグリスを塗ります。
胴部管のキイを押さえないようにご注意ください。

●U字管フルート、アルトフルートの場合

1 頭部管の付いたU字管と胴部管をジョイントします。U字管を回して、指の当たらない吹きやすい位置に合わせます。

2 頭部管を回して、口と唄口の位置(角度)を合わせます。

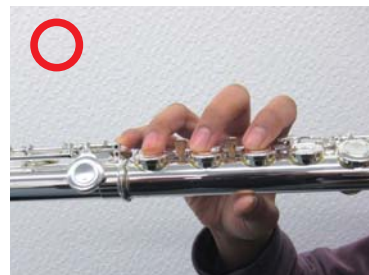
演奏前の準備

2 楽器の構え方

● 指を置く位置

● 全体の構え

1 右手親指を人差し指の真下あるいは、人差し指と中指のほぼ中間に置き、楽器を下から支えます。

2 楽器の角度は水平よりやや下向きにします。

注意! 肩やひじが上がりすぎないようにしましょう。また、楽器の角度が下向きになりすぎないように気をつけましょう。

注意! 指の関節を丸くし、キイはなるべく軽く押さえましょう。
右の写真のように押さえると、指のスムーズな動きを妨げます。

3 チューニング

● ピッコロ、フルート

チューニングは頭部管を抜き差しさせて行います。
チューニングは気温の影響を受けやすいので、事前に息を吹き込み、楽器を温めてから行って下さい。

頭部管を抜く　→ 低くなる
頭部管を入れる → 高くなる

● U字管フルート、アルトフルート

※ 頭部管の先だけを抜かず、U字管と胴部管のジョイント部を抜き差しさせます。

演奏後のお手入れ

演奏後のお手入れ

演奏後は必ず管内の水分を取り除いてください。

1 管内のお手入れ

注意!

管体を取り扱う際はキイに無理な力がかからないように注意してください。また、楽器をぶつけたり落としたりすると、音が出なくなることがありますので十分に気をつけて取り扱ってください。

1 クリーニングロッドの先端の穴にガーゼの端を通します。

2 クリーニングロッドの先端が露出しないように巻きつけます。

※木製部分が露出していると、管内に傷がつく恐れがあります。

3 ガーゼを巻いた方向にゆっくりと回しながら、管内の水分を拭き取ります。

※木製の楽器は念入りに水分を拭き取ってください。
管内に水分が残っていると、管体が割れる恐れがあります。

2 タンポのお手入れ

注意!

演奏後は、タンポとトーンホールの間の水分をできるだけ取り除きましょう。タンポは水分の影響を受けやすいため、メンテナンスを怠ると劣化の原因になります。

1 タンポとトーンホールの間に残っている水分を取り除きます。

キイを開き、クリーニングペーパーを挟みます。
もう一度キイを開き、クリーニングペーパーを抜き取ります。
一度で水分を取り除けない場合は、乾いた部分を使用し数回繰り返します。

注意!

キイを閉じた状態でクリーニングペーパーを引き抜かないでください。
タンポの面が痛む原因になります。

3 楽器表面のお手入れ

クリーニングクロスで本体の汚れを拭き取りましょう。

注意! バネの先端が尖っているため、けがをしないよう注意してください。

注意! バネやコルクがクロスに引っかかり外れることがあります。

4 ケースへの収納方法

ジョイント部分の水分や汚れを拭き取り、頭部管を先にケースに収めます。ジョイント部の内側の水分や汚れも拭き取り、胴部管・足部管もケースに収めます。
無理に押し込まずにきちんとケースにはめ込むようにしましょう。

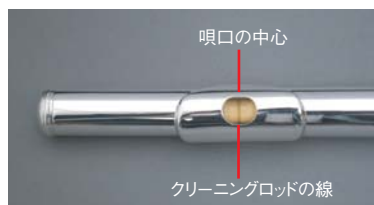
注意!

ケースを閉めるとき、ガーゼやクロスなどを楽器の上に置かないでください。キイなどに無理な力がかかかり変形する恐れがあります。
また、濡れたガーゼやクロスなども、ケースに入れないでください。

ときどきのお手入れ

反射板の位置を確認します。
反射板の位置がずれると正しい音程が得られません。ときどきチェックしましょう。

付属のクリーニングロッドを頭部管に差し込み、クリーニングロッドの線が唄口の中央に来ていることを確認します。

クリーニングロッドの線

注意!

反射板の位置補正については、高い技術を要します。できるだけ、お客様本人が行わずに、お買い上げ店に依頼されることをお勧めします。

楽器が壊れちゃったかも?!
こんなときはどうしたらいいの?!
あなたの疑問、マイケルくんが解決します☆

音がおかしくなった。 出ない音、出にくい音がある。

質問	回答
タンポの状態は正常ですか?	タンポの劣化、コルクなどの劣化、キイの歪み、キイ同士のバランス崩れなど、様々な原因によりタンポがトーンホールをうまくふさいでいない状態になると、音抜け、音程が悪くなります。この場合は修理に出しましょう。
反射板の位置は正しいですか?	反射板の位置がずれていると、音程や響きが悪くなる原因となります。ときどきチェックし、ずれている場合は正しい位置に戻しましょう。
ヘッドコルクは劣化していませんか?	頭部管の中のヘッドコルクが劣化してスカスカになっていると、音程や響きが悪くなる原因となります。この場合は交換する必要がありますので、修理に出しましょう。
リングキイの穴はきちんと塞げていますか?	リングキイの楽器は直接指で音孔を塞がなくてはいけません。クローズキイの楽器で慣れてしまっている場合など、自分では押さえているつもりでも、わずかな隙間ができていることがあります。トーンホールキャップなどを使用し、順に慣れていくようにしてみましょう。

キイの動きが悪くなった

バネは外れていませんか?	管体にはいくつもの針バネが掛かっています。お手入れのときにクロスでひっかけてしまうなど、バネが外れてしまうことがあります。バネが効いていない箇所がないかチェックして、あれば掛け直しましょう。
	バネが劣化して折れてしまったり、また、バネが刺さっている支柱の穴が広がって抜けてしまったりすることもあります。この場合は修理に出しましょう。
楽器本体を落としたりぶつけたりしませんでしたか?	キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまって歪みが起きたりすると、キイの動きが悪くなることがあります。この場合は修理に出しましょう。
	ケースの中に運指表やガーゼなどを一緒に入れたりすると、気づかないうちにキイを圧迫してしまうことがあります、余分なものを入れないようにしましょう。

キイを動かすとカチャカチャと異音がする

コルクやフェルトなどのパーツが消耗していませんか?	キイの足などについているコルクやフェルトが消耗すると、異音の原因になるだけでなく、キイの開きなどにも影響し、音程まで悪くなってしまう可能性があります。この場合はパーツ交換が必要なので、修理に出しましょう。
キイオイルが不足していませんか?	キイとポストの間などにキイオイルが不足すると異音の原因になるだけでなく、キイの動作不良にもつながります。この場合はキイオイルを注しましょう。
キイが変形して管体や別のキイに当たっていませんか?	キイの部分をぶつけて曲げてしまったり、管体をぶつけてしまって歪みが起きたりすると、異音の原因になるだけでなく、キイの動作不良にもつながります。この場合は修理に出しましょう。
	ケースの中に運指表やガーゼなどを一緒に入れたりすると、気づかないうちにキイを圧迫してしまうことがあります、余分なものを入れないようにしましょう。
ネジが緩んでいませんか?	キイガードやキイポストなどのネジが緩んでいる場合は締め直しましょう。バランスネジなど、締めすぎてはいけないネジもあるので注意が必要です。

キイ(タンポ)がくっつく、べたつく

タンポに水分や汚れがついていませんか?	演奏後に管内の水分をよく取り除かないと、タンポのべたつきや劣化の原因となります。管体をクリーニングロッドとガーゼで掃除した後には、クリーニングペーパーなどを使用し、タンポに残った水分をよく取り除きましょう。吹き口に近いトーンホールほど水分が溜まりやすいので、トリルキイ、左手主鍵を中心にチェックしましょう。また、演奏中にトーンホールから水分が流れてくることもあります。その都度息で吹き飛ばしたり、クリーニングペーパーを使用すると良いでしょう。べたつき対策の商品を試してみるのも良いかもしれませんが、症状がひどい場合には、タンポを交換するなどの処置も必要になってきますので修理に出しましょう。

表面が黒くなってきたのですがどうすればよいですか?

銀メッキの楽器の表面は、お手入れをしないと銀が酸化して黒く変色します。変色してしまった箇所は、市販のシルバークロスやポリッシュを使用して磨きましょう。また、毎日のお手入れで磨きすぎると、メッキが剥げてしまうこともあるので注意が必要です。

ジョイントがスムーズにできない

ジョイント部が汚れていませんか?	固くて入れにくい、抜きにくい → グリスなどは使用せず、両側のジョイント部の汚れを隅まできれいに拭き取りましょう。場合によってはシルバークロスなどを使用すると良いでしょう。
ジョイント部が変形していませんか?	固くて入れにくい、抜きにくい → まっすぐゆっくり引き抜いたときに金属が当たる音がするなど、ジョイント部が変形していることがあります。この場合は修理に出しましょう。
縦方向に動かしながら抜き差ししていませんか?	緩くて演奏時に動いてしまう → ジョイント部は金属どおしなので、磨耗や変形していくことがあります。管を抜き差しするときに縦方向にカタカタさせていると、ジョイント部が広がりやすくなってしまいます。キイに負担がかからないように注意しながら、横方向(円周方向)に少しの幅で動かし、抜き差しするようにしましょう。緩くなってしまった場合は修理に出しましょう。

ピッコロで気をつけることはありますか?

頭部管のジョイントがきつい場合 → コルクと金属部のジョイントになります。きつい場合は少量のコルクグリスを塗布し、少し回してなじませます。金属の変色により、コルク部が黒く汚れることがありますが、その場合は汚れたグリスよく拭き取り、新しくグリスを塗り直しましょう。

管内のお手入れ → フルートと同様、クリーニングロッドにガーゼを巻きつけて管内の水分を拭き取ります。ピッコロの管内は思ったより細く、また円錐管となっています。ガーゼはできるだけ細く巻きつけ、クリーニングロッドを無理に通さないように注意しましょう。

木製管体の場合 → 木製の管体は、金属や樹脂のものに比べ、温度や湿度の変化を受けやすい性質をもっています。急激な温度や湿度の変化により、管体が膨張・収縮し、管体がひび割れたり、キイの動作不良を起こすことがあります。取り扱い時には十分注意しましょう。

演奏前に楽器を室温に慣らし、それから手のひらで包むようにして温めましょう。息を吹き込んで温める方法は、急激な変化によるひび割れ等の原因となるので避けましょう。また、エアコンによる乾燥などにも十分に注意しましょう。

新品の使い始めしばらくは、長時間の演奏を避け、徐々に慣らしていきましょう。また演奏の合間にも、こまめに管内の水分を取り除きましょう。

アルトフルートで気をつけることはありますか?

U字頭部管をジョイントする角度 → ストレートではキイが届かない場合など、U字頭部管を使用します。U字部が真上の方向になるように主管とジョイントし、少し手前に回しながら唄口の位置も決めます。腕や手首に負担がなく、安定する位置を見つけましょう。

調子=Gとは? → 管楽器には移調楽器が多く、アルトフルートもそのひとつです。「調子=G」と記し「G管(ゲー管)」と呼ばれ、記譜の「ド」(運指表どおり)を吹くと、実音では「ソ(G)」の音が出ます。通常、アルトフルート用に書かれた楽譜(G調)を演奏するときに困ることはありませんが、その楽譜の音をピアノなどで確認するときや、通常のフルート、ピアノや歌の楽譜(C調)を使って吹くときには注意が必要です。

修理に出したいのですがどうすればよいですか?

修理依頼の際はご購入いただいた販売店へお持ちください(通信販売等でご購入された場合も、販売店へご連絡ください)。また、ホームページのフォームからもお問い合わせいただけます。

保証期間の内外にかかわらず、保証書に所定事項(ご購入日、お名前、ご住所、販売店欄など)をご記入の上添付してください。また、故障内容の詳細を明記し、お手入れ用品などの周辺小物は取り出しておいてください。有償修理となる場合は、楽器をお預かりの上で見積もりをご案内させていただきます。